

JANPU看護学教育評価検討委員会企画 ワークショップ

**「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと
卒業時到達目標」の概要と活用
－JANPU会員校における活用実態調査をふまえて－**

2020年2月16日（日）

一般社団法人日本看護系大学協議会（JANPU）
看護学教育評価検討委員会委員長 小山真理子

内 容

1. 「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」 (JANPU, 平成30年6月) の概要
2. 会員校における「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」の活用状況の実態調査結果 (抜粋)
3. 看護学士課程のカリキュラムへの活用について
4. 今後に向けて

看護学士課程 における看護学教育カリキュラムの 前提

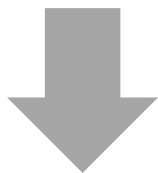
報告書 p5

- 1) 保健師・助産師・看護師に共通した看護学の基礎を教授する課程であること
- 2) 看護生涯学習の出発点となる基礎能力を培う課程であること
- 3) 創造的に開発しながら行う看護実践を学ぶ課程であること
- 4) 人間関係形成過程を伴う体験学習が中核となる課程であること
- 5) 教養教育が基盤に位置づけられた課程であること

注：平成16年度 文部科学省：看護学教育の在り方に関する検討会報告書
「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」に明示され、
平成23年JANPU報告書、平成30年JANPU報告書にも踏襲

「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」作成までの経緯

- 平成23年3月：看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム導入に関する調査研究報告書（代表：野嶋佐由美）学士課程においてコアとなる看護実践能力：5群20の看護実践能力、卒業時到達目標、教育内容（例）



社会の変化：医療提供体制の変化（病院から地域へ）
看護職への期待の変化、科学技術の発達 他

- 平成28年度～29年度：JANPU看護学教育評価検討委員会
看護学士課程における看護実践能力及び教育のあり方の再検討
→看護学士課程における6群25のコアコンピテンシーと卒業時到達目標（案）
→H29年12月6日～H30年1月8日 **会員校より意見聴取**→意見 825件(74校)
→その間**2回の説明会**開催 →意見を反映させて**修正** → **平成30年6月報告書**
(JANPU HPに掲載)

「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」 (JANPU, 平成30年6月) の特徴

1. 平成23年度以降の**社会の変化をふまえて内容・能力を修正**
2. 5群20の看護実践能力 → 6群25のコアコンピテンシー
3. 教育内容（例）の整理とともに**教育内容の大項目の作成**
4. 入学時から卒業時の到達目標を達成するまでに修得する6群の能力を学士力、講義、演習、実習と関連づけて
「コアコンピテンシーに基づく看護学士課程教育の構造」
として**図示**した

用語の使い方について

平成23年度報告書「**コアとなる看護実践能力**」



グローバル化が進み、コンピテンシーという用語がよく用いられるようになった



看護実践能力とコンピテンシーの定義、使い方について吟味

コアコンピテンシーの定義

コンピテンシー：「単なる知識や技能だけでなく、様々な心理的・社会的リソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力」

（高等教育質保証用語集より）

コアコンピテンシー：

単なる知識や技能だけでなく、様々な資源を活用して、特定の状況の中で、複雑な課題に対応できるコアとなる能力

平成23年3月報告書の看護実践能力と

平成30年6月報告書のコアコンピテンシー：変更箇所 （報告書p6）

平成
23
年
3
月

- I 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
- II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
- III 群 特定の健康課題に対応する実践能力
- IV 群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力
- V 群 専門職者として研鑽し続ける基本能力

5群20の看護
実践能力
(平成23年 文科省
報告書にも採用)



平成
30
年
6
月

- I 群 対象となる人を全人的に捉える基本能力
- II 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
- III 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
- IV 群 特定の健康課題に対応する実践能力
- V 群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力
- VI 群 専門職として研鑽し続ける基本能力

6群25のコア
コンピテンシー

平成30年度報告書で追加したコアコンピテンシー

報告書p6

I 群 全人的に対象を捉える基本能力

1. 看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力
2. 生物学的存在としての人間について理解しアセスメントに活かす基本能力
3. 生活体としての人間について理解しアセスメントに活かす基本能力
4. 人間を取り巻く環境について理解しアセスメントに活かす基本能力

IV群 特定の健康課題に対応する実践能力

18. 在宅療養者と家族を支援する能力

JANPU会員校における「看護学士課程教育における コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の活用実態調査

調査期間：2018年12月19日(水)～2019年1月21日(月)

【調査A】：看護学教育責任者

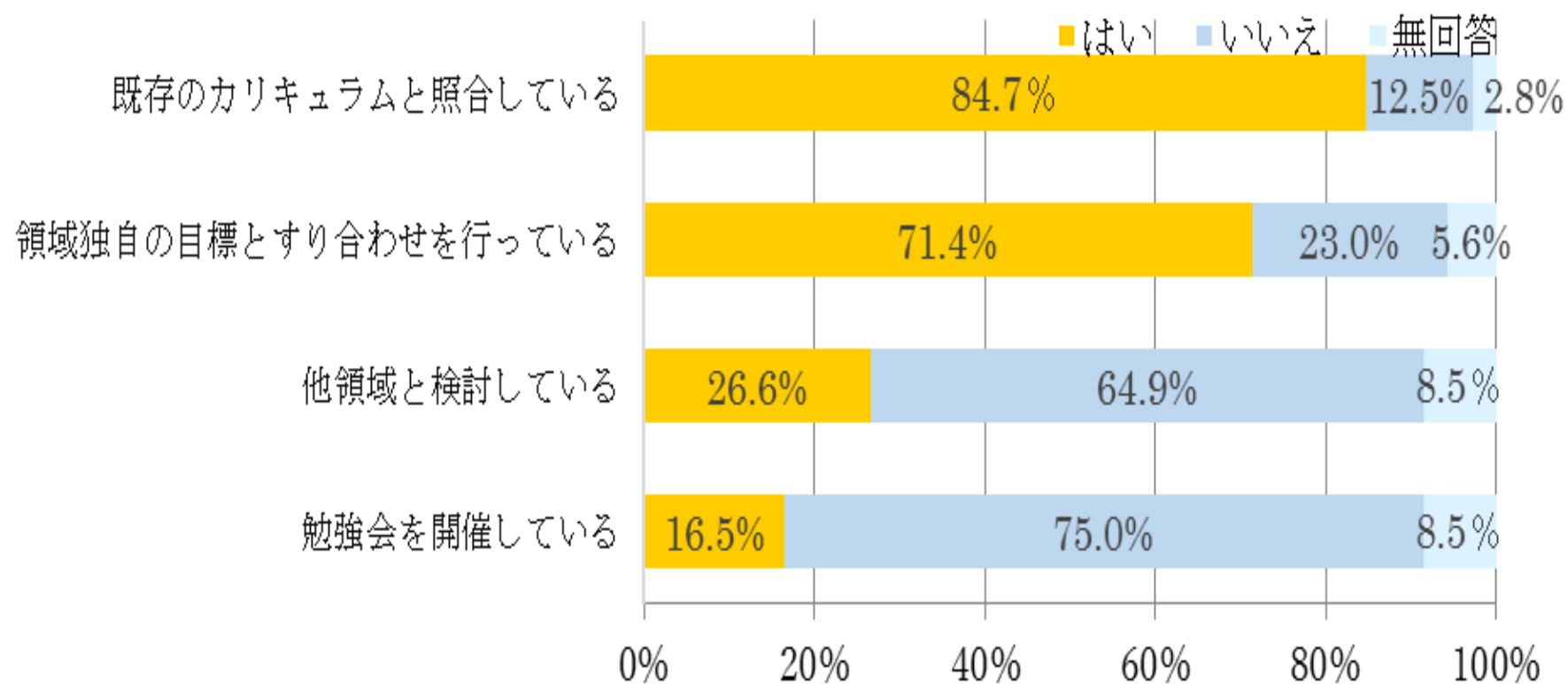
【調査B】：看護専門領域責任者

<実態調査報告書>

**「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと
卒業時到達目標」－JANPU会員校における活用状況と課題
2019年6月（JANPU HPに掲載）**



活用に向けての課題とニーズが明らかになった

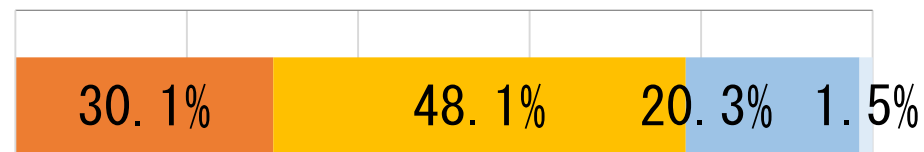


図「活用方法を検討している」場合の具体的内容

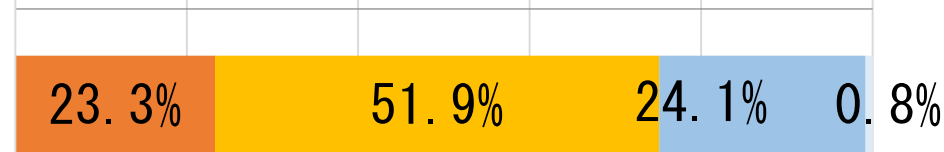
(看護専門領域) n=439人

■ 非常にそう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

検討するための時間が不足している



看護学教育モデル・コア・カリキュラムとの関係性・位置づけが良く分からない



教員への周知が十分でない



学士力と本報告書とのつながりが分かりにくい



どう活用したら良いか分からない



0% 20% 40% 60% 80% 100%

図「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」を

大学で活用する上での課題

n=133校

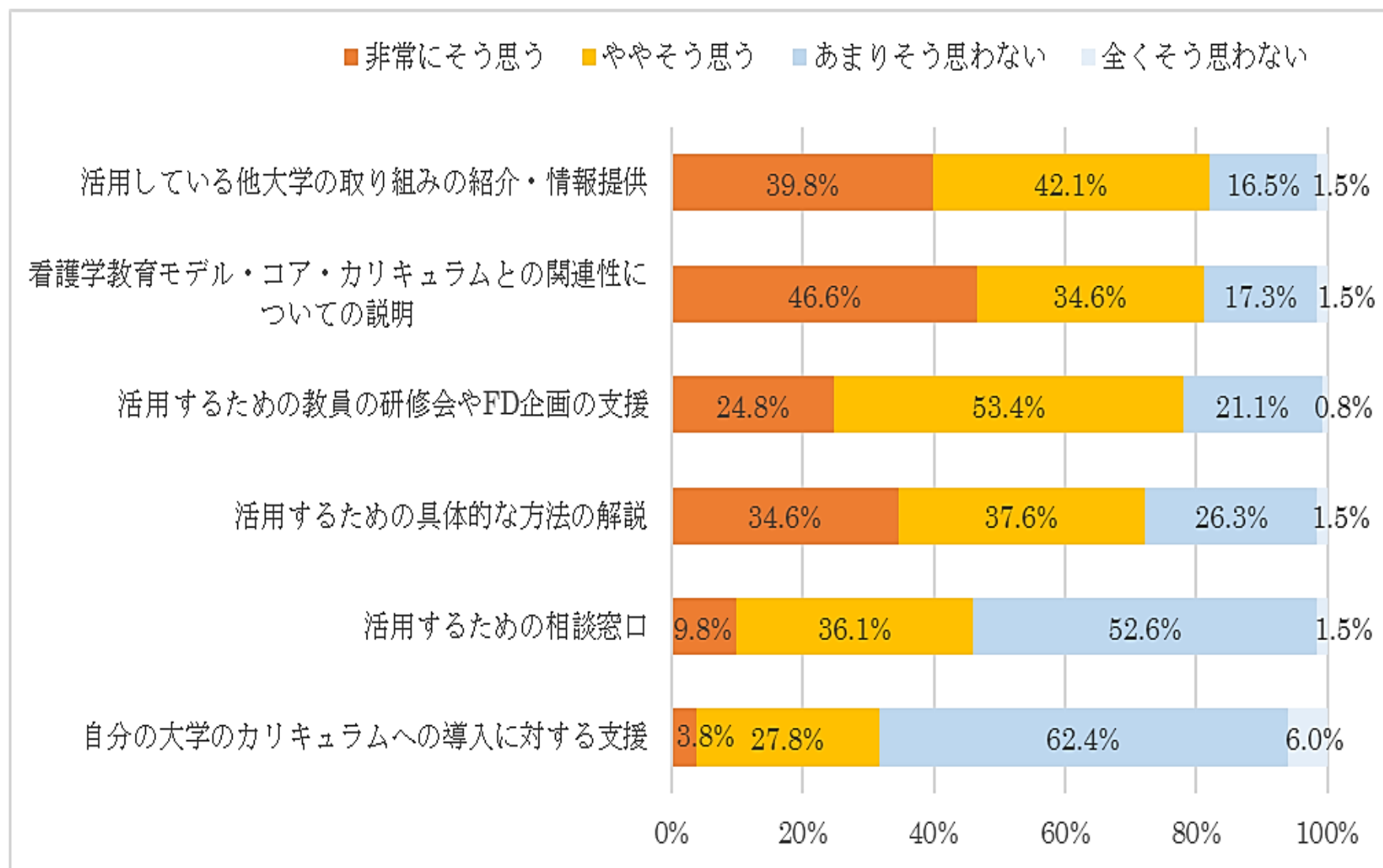


図 「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」を大学で
活用する上で必要と思う支援や研修 n=133校

看護学士課程のカリキュラムへの活用 1

- 1) カリキュラムは大学の建学の精神・理念に基づく
- 2) コアコンピテンシーに基づく看護学士課程教育の構造（図1）の活用
- 3) 学士力の育成と看護実践能力の育成
- 4) 入学時から卒業時の到達目標までどのように能力を積み上げるか
- 5) 学生への能力の見える化の工夫 他

VI群 専門職として研鑽し続ける基本能力 24.生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力
25.看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力

講義・演習（シミュレーション教育を含む）

実習

学士力

I群 対象となる人を全人的に捉える基本能力

1. 看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力
2. 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力
3. 人間を生活者として理解しアセスメントに活かす基本能力
4. 人間を取り巻く環境について理解しアセスメントに活かす基本能力

V群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力

18. 地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力
19. 保健医療福祉における看護の質を改善する能力
20. 地域ケア体制の構築と看護機能の充実に資する能力
21. 安全なケア環境を提供する能力
22. 保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力
23. 社会の動向と科学技術の発展を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力

IV群 特定の健康課題に対応する実践能力

14. 健康の保持増進と疾病を予防する能力
15. 急激な健康破綻と回復過程にある人を援助する能力
16. 慢性・不可逆的健康課題を有する人を援助する能力
17. エンドオブライフにある人と家族を援助する能力

III群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力

8. 根拠に基づいた看護を提供する能力
9. 計画的に看護を実践する能力
10. 健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力
11. 個人と家族の生活をアセスメントする能力
12. 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力
13. 看護援助技術を適切に実施する能力

II群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力

5. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
6. 実施する看護を説明し意思決定を支援する能力
7. 援助的関係を形成する能力

講義・演習・実習の
相互フィードバックに
よる
実践能力の発展

看護学・専門職としての学びの統合

卒業時の到達目標

図1 コアコンピテンシーに基づく看護学士課程教育の構造（実習の詳細は図2を参照）

V 群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力

IV 群 特定の健康課題に対応する実践能力

III 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力

II 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力

講義・演習
(シミュレーション
教育を含む)

講義・演習・実習の
相互フィードバックに
よる実践能力の発展

VI 群 専門職として研鑽し続ける基本能力

V 群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力

実 習

III 群 根拠に基づき看護を計画的に
実践する能力

11. 個人と家族の
生活をアセス
メントする能力

IV 群 特定の健康課題
に対応する実践能力

12. 地域の特性
と健康課題を
アセスメント
する能力

14. 健康の保持増進
と疾病を予防する
能力

15. 急激な健康破綻
と回復過程
にある人を
援助する能力

17. エンドオブライフ
にある人と家族
を
援助する能力

16. 慢性・不可逆
的
健康課題を
有する人を援助
する能力

13. 看護援助
技術を適切
に実施する
能力

10. 健康レベルを
成長発達に応じ
てアセスメント
する能力

9. 計画的に看護
を実践する
能力

8. 根拠に基づいた
看護を提供する
能力

II 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力

I 群 対象となる人を全人的に捉える基本能力

看護学・専門職としての学びの統合

卒業時の到達目標

図2 コアコンピテンシーを身につけるための実習の例

看護学士課程のカリキュラムへの活用 2

- 1) 大学のカリキュラム作成にあたって
どの指針または報告書が最も良いのか？
それぞれの違いは？
- 2) 他の大学の取り組みからの学び
- 3) カリキュラム評価による改善への取り組み
- 4) その他

今後に向けて

- ・ 「教育内容」はあくまでも例であるため、各大学、各科目、で検討可能
- ・ 各大学のカリキュラム作成に「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標」を活用し、学生と教員が共有し、学生自身も自分の能力の成長が見えるしくみ
- ・ 各大学での多様な取り組みを共有することにより、活用法の改善につながる
- ・ 活用して改善すべき点があれば改正に向けたご意見を
→ **社会の変化に応じて一定期間ごとに見直しは必要**

今後に向けて(続) (JANPU看護学教育評価検討委員会)

活用に向けた支援ガイドの作成に向けた準備

「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」を各大学
や教員がどのように活用できるのかを解説する
「活用支援ガイド」の作成をめざしています。



支援ガイドの作成に向けてのご意見をアンケートで
ご協力お願いします。

参考文献：報告書について

報告書は、一般社団法人日本看護系大学協議会ホームページから
ダウンロードできます。

- ・「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと
卒業時到達目標」平成30年6月
<http://www.janpu.or.jp/filecorecompetency.pdf>
- ・「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと
卒業時到達目標」－JANPU会員校における活用状況と課題
2019年6月
<http://www.janpu.or.jp/file/corecompetencyhoukoku.pdf>